

NOMURA

2022年10月期 第3四半期 決算説明資料

のむら産業株式会社 証券コード 7131

第3四半期経過時点で前年同期比増収、増益で進捗

売上高 **38**億円
前年同期比 **+9.8%**

主力の包装関連事業において

- ✓ 家庭用向け販売は引き続き堅調。
- ✓ 業務用向け販売についても回復傾向が継続

営業利益 **2.4**億円
前年同期比 **+39.4%**

- ✓ 素材・部品等の仕入価格高騰の影響を抑えるためコストダウンに注力

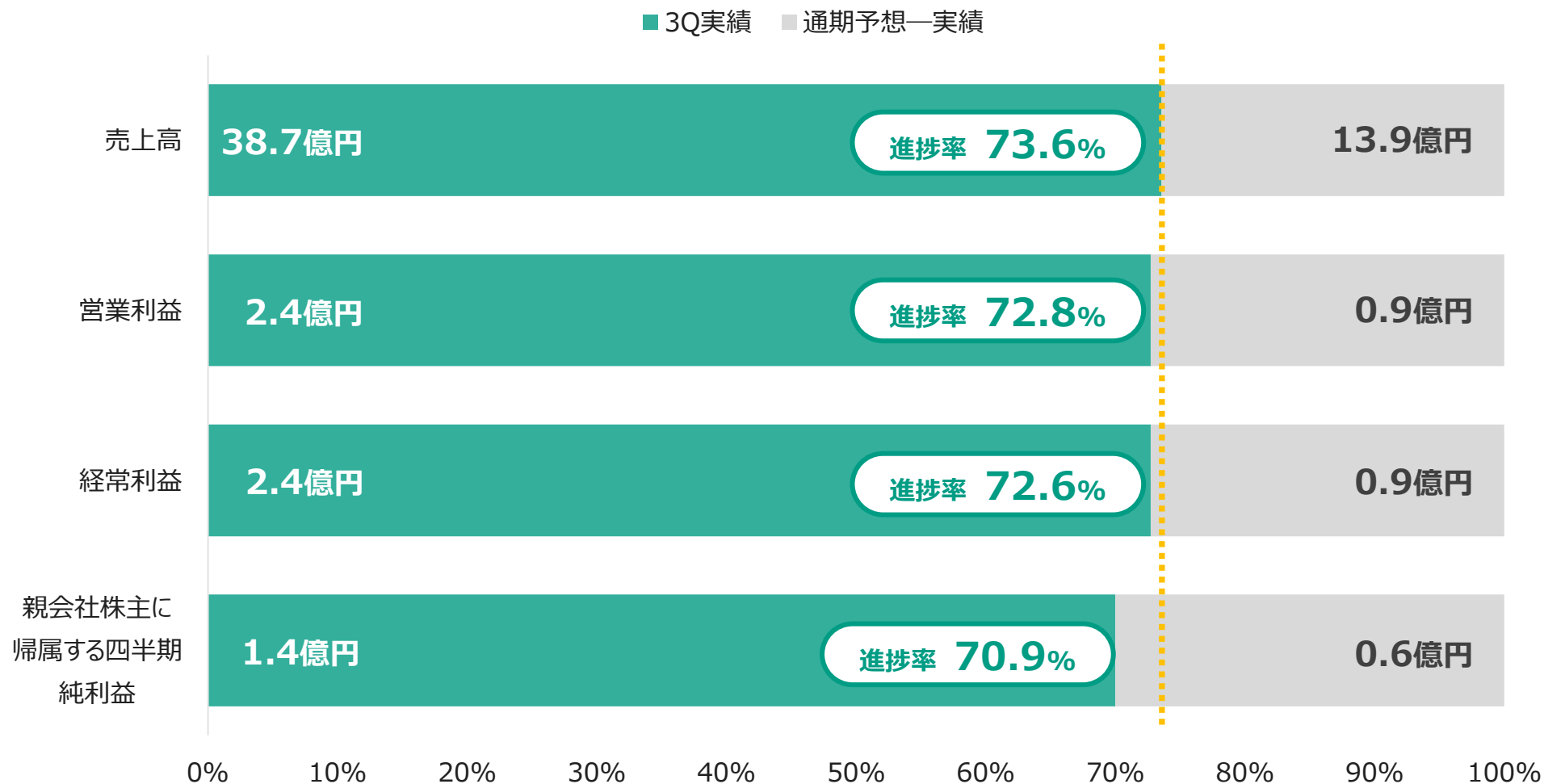
連結決算概要

売上高は、9.8%増加。増収効果、各種利益向上策が奏功し、段階利益、利益率がに上昇。

単位：百万円	21/10期 第3四半期		22/10期 第3四半期		前年同期比	
	実績	売上比率	実績	売上比率	増減額	増減率
売上高	3,525	—	3,870	—	+345	+9.8%
売上総利益	888	25.2%	993	25.7%	+105	+11.9%
営業利益	174	4.9%	243	6.3%	+68	+39.4%
経常利益	174	5.0%	240	6.2%	+65	+37.3%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	106	3.0%	146	3.8%	+39	+36.7%

2022年10月期 第3四半期 通期進捗状況

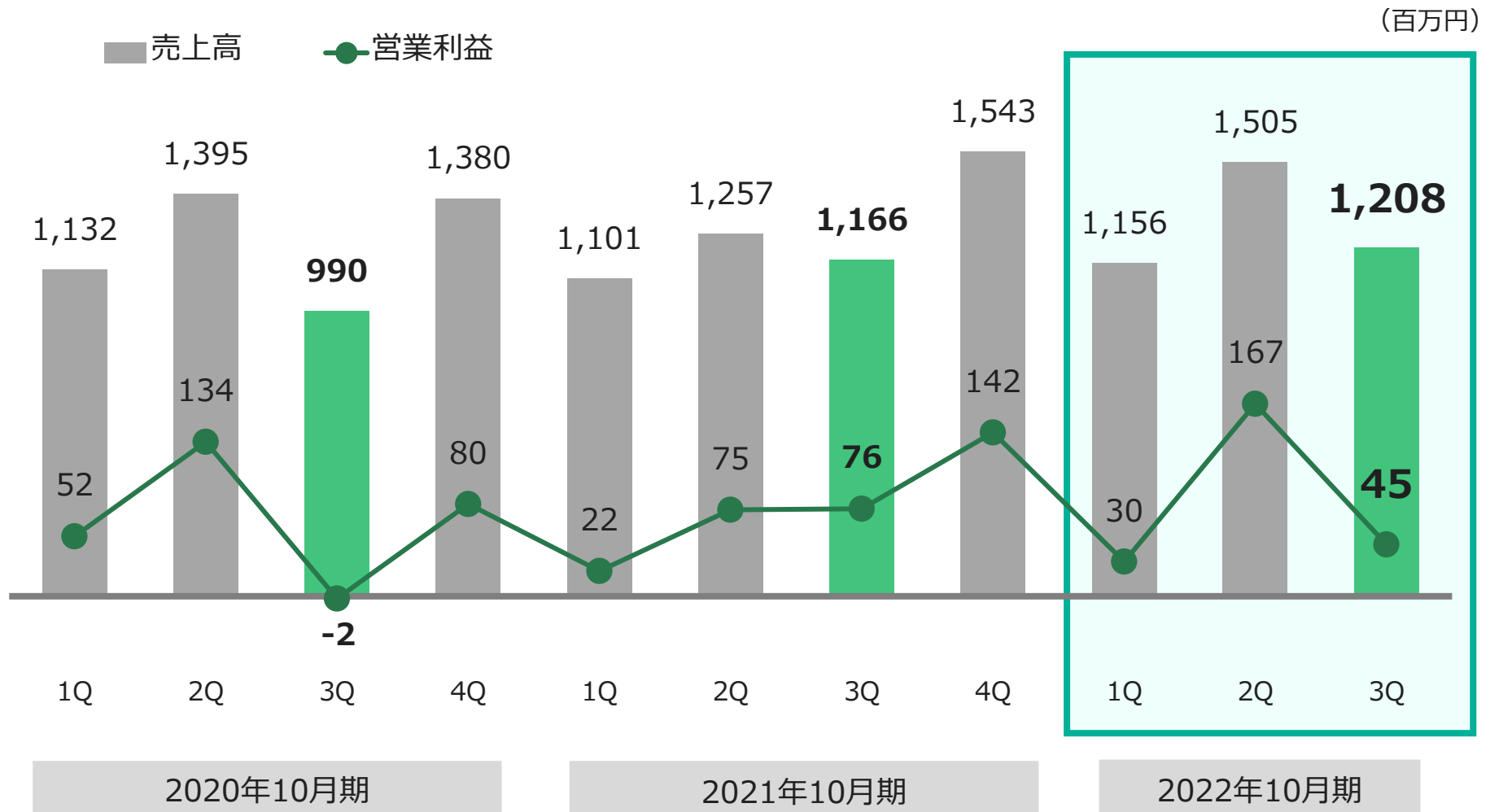
売上高、各段階利益とも進捗率は、社内計画に沿って堅調に推移。



売上高・営業利益 四半期推移

5月～7月の第3Q期間の比較では、毎年着実に売上が拡大。

米の収穫時期に需要が増加する傾向があることから、売上高および営業利益は第4四半期に比重が高くなる傾向あり。



セグメント別決算概要（売上高・営業利益）

(単位：百万円)		21/10期 第3四半期	22/10期 第3四半期	前年同期比	
		実績	実績	増減額	増減率
売上高	包装関連事業	2,956	3,273	316	10.7%
	物流梱包事業	571	596	24	4.3%
	調整額	▲3	0	3	—
	合計	3,525	3,870	345	9.8%
営業利益	包装関連事業	162	217	55	34.0%
	物流梱包事業	12	25	13	110.8%
	合計	174	243	68	39.4%

※セグメント別の営業利益は、のれん償却費及び販管費等の配賦等を調整したセグメント利益を記載しております。

連結財政状況

(単位：百万円)	21/10期 期末	22/10期 第3四半期	増減額	主な増減要因
総資産	3,468	3,420	▲47	棚卸資産増加、売上債権回収による減少
負債	2,212	2,121	▲90	短期借入金増加、長期借入金が返済により減少
純資産	1,256	1,299	42	親会社株主に帰属する四半期純利益の計上 自己株式の取得

2022年10月期 決算見通し

22/10期の上期は、予想を上回る水準で推移し第2Q業績を上方修正。その後も業績は、社内計画通り堅調に推移しているものの、原油高及び円安等による包材と機械部品の仕入価格の上昇、新型コロナウイルス感染症の影響等の不確定要素が多いことから、22/10期の通期業績予想は期初からの変更は行わず、前期比で売上3.8%増、営業利益5.7%増の増収増益計画の確実な達成を目指します。

(単位：百万円)	21/10期 (実績)	売上比率	22/10期 (予想)	売上比率	前年同期比	
					増減額	増減率
売上高	5,068	—	5,260	—	+191	+3.8%
売上総利益	1,269	25.0%	1,384	26.3%	+114	+9.1%
営業利益	316	6.2%	334	6.4%	+18	+5.7%
経常利益	324	6.4%	331	6.3%	+6	+2.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	205	4.1%	206	3.9%	+1	+0.6%
1株当たり当期純利益 (EPS.単位円)	147.58	—	148.46	—	+0.88	+0.6%

2022年10月期の取り組み

2022年10月期では主に下記の取り組みを継続し、持続的な企業価値の向上を図る

包装関連事業	包装資材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 差別化した製品・サービスの拡販による、新規顧客の開拓と既存顧客の深耕によりシェア拡大 ・ 商品力（コスト、スピード、品質）の向上と安定供給により、新たな顧客作りに繋げる
	包装機械	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機械部門を強化し、品質強化と生産能力を拡大 ・ 顧客ニーズに対応した機械の改善・改良により、設備導入の潜在需要を掘り起こす
	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 差別化した製品を広めることにより、西日本での収益の拡大を図る
物流梱包事業		<ul style="list-style-type: none"> ・ 脱プラの風潮に沿った紙緩衝材の販売強化 ・ 脱プラの風潮に沿ったエア緩衝材のリサイクル商材の拡販 ・ 紙製業務用ガムテープの拡販、ガムペーパーの商品開発
新規事業 新規市場		<ul style="list-style-type: none"> ・ 米穀業界で培ったノウハウ・ナレッジ等を活用し、米穀業界以外での市場を開拓・強化

セグメント別決算概要（売上高・営業利益）

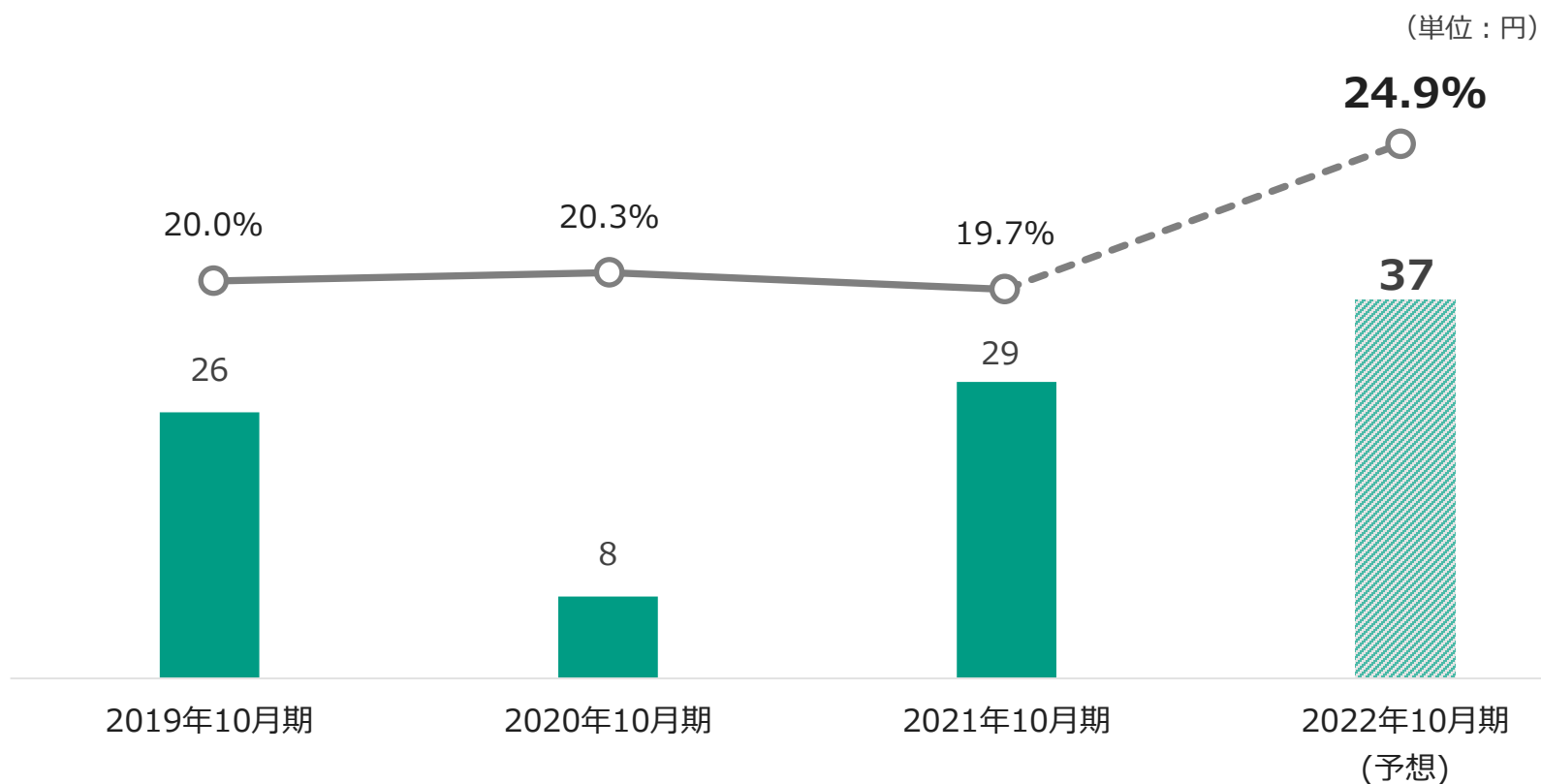
【売上高】

(単位：百万円)		21/10期	22/10期	前期比		概要
		実績	予想	増減額	増減率	
売上高	包装関連事業	4,322	4,480	157.9	3.7%	既存顧客の深耕、新規顧客の開拓、西日本市場への拡販等により、増収見通し
	物流梱包事業	750	780	30.4	4.1%	紙緩衝材の販売強化、エア緩衝材のリサイクル商材の拡販等により、増収見通し
	調整額	▲3	0	3.4	-	セグメント間売上
	合計	5,068	5,260	191.7	3.8%	
営業利益	包装関連事業	310.0	319.7	9.8	3.1%	仕入価格の値上げ基調、販管費等の増加を見込んでおりますが、増収見通しであること及び仕入価格の値上げ基調圧縮、製造原価の改善等の施策を行うことにより、増益見通し
	物流梱包事業	6.6	14.9	8.2	123.8%	仕入価格の値上げ基調、販管費等の増加を見込んでおりますが、増収見通しにより、増益見通し
	合計	316.6	334.6	18.0	5.7%	各セグメントの増益により、前期比18百万円の増益見通し

※セグメント別の営業利益は、のれん償却費及び販管費等の配賦等を調整したセグメント利益を記載しております。

株主還元

◆ 基本方針	株主還元は経営上の重要な課題と認識しており、事業拡大に必要な内部留保とのバランスを図りながら安定的かつ継続的な配当を実施
◆ 連結配当性向目標	25%程度

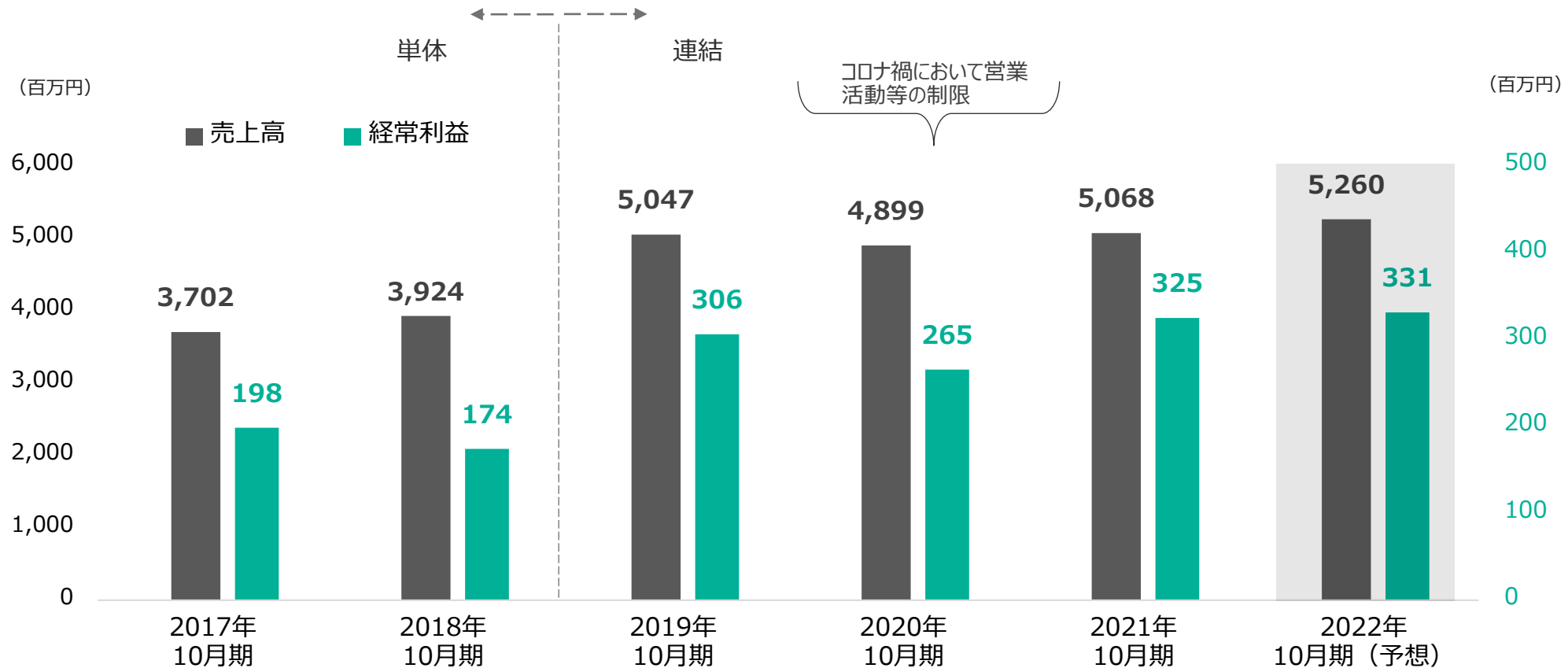


※2020年8月12日付で普通株式1株につき25株の割合で株式分割を行っており、1株当たりの年間配当金につきましては当該株式分割後の配当額を記載しております。

業績動向

21/10期は、売上高および利益が前期を上回り、22/10期の上期についても予想を上回る水準で推移していることから、22/10期の通期予想も達成できる見込

コロナ禍前の業績と比べても順調に成長を続けている



のむら産業について

米穀包装資材・機械をワンストップで企画・販売しているトップランナー

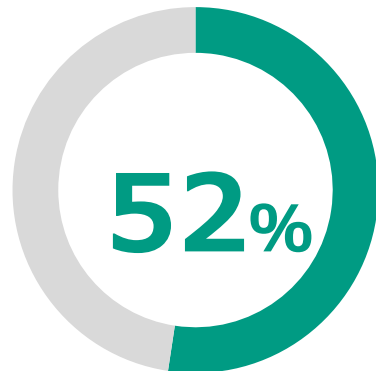
米穀包装資材・機械のパイオニア、米穀用包装資材と包装機械の両方を手掛けニッチ領域で事業を展開

—各市場のシェアと取引継続率—

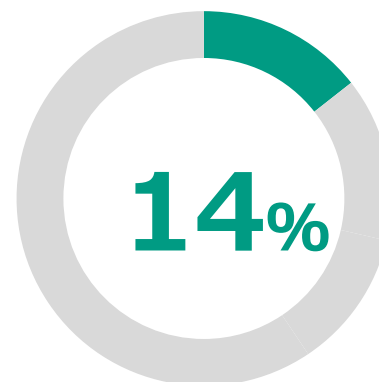
米穀包装業機械業界シェア No.1

長年培った信頼と実績で高い取引継続率を実現

業界シェア
米穀包装機械※1



業界シェア
米穀包装資材※2



顧客との
取引継続率※3

97%

※1. 有価証券報告書等各種データより当社推定2020年データ

※2. 農林水産省「米をめぐる関係資料」（2020年7月公表データ）に基づき当社推定

※3. 中期的な継続率の判断材料として、2014年10月期の顧客が2019年10月期、2020年10月期に当社と取引があった顧客ベースで算出

本資料の取扱いについて

- 本資料は、のむら産業(株)の業績動向及び事業内容について、のむら産業(株)による現時点における予定、推定、見込又は予想に基づいた将来の展望についても言及しております。
- これらの将来の展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。様々な要因により、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- のむら産業(株)の実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来の展望と異なる場合がございます。
- 本資料における将来の展望に関する表明は、本資料開示時点において利用可能な情報に基づいてのむら産業(株)によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

のむら産業株式会社 管理部

TEL : 042-497-6191

Web : <https://www.nomurasangyo.co.jp/>

Mail : ir@nomurasangyo.co.jp